

情報連絡員だより

－令和3年4月の報告より－

前年比では業況回復するも

コロナ流行前水準には戻らず

業種 / 景況天気図		概況
全	体	前年の4月は1回目の緊急事態宣言が発令され、全体的に需要が激減していたため、前年比では一部で改善が見られた。しかし、コロナ流行前の一昨年水準には程遠い状況。3回目の緊急事態宣言の発令、本県の警戒度の引き上げにより、先行き不透明感が増す中、ワクチン接種での経済正常化に期待する声が聞かれる。
製 造 業	食 料 品	パンは、前年比では売上増加するも、コロナ流行前水準には戻らず。菓子は、入学式等の催しが注文につながるも厳しさが続く。製麺は、業務向けは依然として厳しい。酒造は、普通酒以外は順調で、前年のような著しい落ち込みは見られない。食肉は、肉食需要に支えられ業況安定するも、前年の巣籠り需要には及ばず。
	織 維 ・ 同 製 品	桐生織物は、輸出向けは低調推移の上、イベント中止の影響を受け、先行き不透明感が強い。刺繍は、百貨店及びアパレル業界の業績不振により厳しさが増す。伊勢崎織物は、秋物の展示会への出展の動きがあるなど、広幅織物はコロナ危機から脱する兆しが見られる。服飾製品は、業績悪化で新規取組や業務転換が急務。
	窯 業 ・ 土 石 製 品	生コンは、民需の落ち込みにより東毛と北毛地域の出荷量が低調、今後は官公需でも落ち込みが予想される。砕石は、東毛と吾妻地域は売上増加、渋川地域は減少する中、全体としては不変。砂利は、約10パーセントの出荷量減少が数ヶ月続く中、生産量を増やし在庫量を確保。
	機 械 ・ 金 属	自動車関連は、一部にコロナ危機から脱却している企業も見られるが、半導体と樹脂の不足、米国西海岸の港湾混雑により大幅な減産が行われ、下請企業は今後の動向を懸念。鍍金は、半導体製造装置、工作機械部品、PC、データセンター向けが好調に推移。電機は、再生可能エネルギー発電製品の需要が上向き見込み。
	そ の 他 の 製 造 業	紙加工品は、全体的には復調の兆しが見えるが、取引先のコロナの影響度合いにより、受注量に差が表れる。印刷は、コロナの影響は感じられるも、売上、収益状況、設備操業度は上向き。ゴム製品は、前年の1回目の緊急事態宣言下との比較では売上増加するも、自動車関連の落ち込みにより操業度は低水準で推移。
非 製 造 業	卸 売 業	高崎卸団地は、徹底した感染対策を講じ、延期していたイベントを開催、1,500人の来場者で賑わった。機械器具卸は、リモート営業が増加する中、商談に必要な情報不足に苦慮。再生資源卸は、コロナと半導体不足の影響で工場稼働率が低下し、鉄屑発生量が減少、相場の先高観が高まる。
	小 売 業	家電小売は、エアコンや洗濯機が動き始めるも、テレビの動きが鈍い。燃料小売は、需要の落ち込みが続く中、原油価格の上昇に伴い販売価格が上昇し、売上増加。生花小売は、入学式や入社式等が実施され需要が上向きも一昨年水準には程遠い状況。商店街は、人出が減る中、イベントも中止となり苦戦を強いられる。
	サ ー ビ ス 業	温泉旅館は、愛郷ぐんまプロジェクト第2弾の効果から、前年比では売上増加となるも、一昨年比では半分以下の水準、また、1月から休業が続く旅館や融資の返済が始まり資金繰りに苦しむ旅館も見られる。建築設計は、高齢者や障害者に対するバリアフリー整備ガイドラインが改正され、その対応に追われる。
	建 設 業	建設工事は、多くの企業が公共工事量の不足感を抱き、企業存続に必要な工事量の確保に支障が出つつある状況。電気工事は、住宅着工数が微増し需要は上向き。塗装看板は、個人需要の落ち込みに加え、飲食店や商業テナントの工事も減少。鉄構は、受注量の二極化が表面化する中、材料費の上昇や納期の長期化を不安視。
	運 輸 業	食料品の輸送量が増加するも全体としては低水準で推移、燃料価格は大幅な値上げが一段落するも高止まり傾向が続いており、収益に与える影響が懸念される。野菜関連は平年より気温が高く、レタス、きゅうり、なすの輸送量が増加。小口配送は、食料品や医薬品の配送が好調で、五月人形の輸送需要も上向き。